



Press release

2021年12月16日

アクサ生命、金融リテラシーと健康リテラシーに関する意識調査の結果を公表

- 人生100年時代を楽しむために必要だと思うリテラシー
1位「健康リテラシー」、2位「金融リテラシー」
- 子どもに社会人になるまでに身につけてほしい金融リテラシー
1位「生活設計・ライフプランニング」、2位「資産形成・資産管理」、3位「金融・経済の仕組み・事情」
- 金融リテラシーが高いと思うアニメキャラクター TOP2 「ドラえもん」、「江戸川コナン」

アクサ生命保険株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長兼CEO:安淵 聖司)は、全国の20歳~69歳の男女を対象に、『金融リテラシーと健康リテラシーに関する意識調査2021』をインターネットリサーチで実施し、1,000名の有効サンプルを集計した結果をまとめました。

【調査結果(抜粋)】

- 人生100年時代を楽しむために必要だと思うリテラシー 1位「健康リテラシー」、2位「金融リテラシー」
- 「金融リテラシーに自信がある」18.4%
マネー教育を受けたことがある人の半数が「金融リテラシーに自信あり」と回答
- 金融リテラシーで今後高めたいこと 1位「資産形成・資産管理」、2位「生活設計・ライフプランニング」
- 子どもに社会人になるまでに身につけてほしい金融リテラシー
1位「生活設計・ライフプランニング」、2位「資産形成・資産管理」、3位「金融・経済の仕組み・事情」
- 「生活設計・ライフプランニングの必要性を感じている」64.6%。40代では75.0%
- 「生活設計・ライフプランニングを行ったことがある」22.3%。マネー教育を受けた人では64.3%
- 「健康リテラシーに自信がある」24.7%。40代では19.0%にとどまる
- 健康リテラシーで今後高めたいこと 1位「からだの健康」、2位「こころの健康」、3位「病気の予防」
- 勤め先で行われている従業員の健康リテラシーを高めるための取り組み 1位「ストレスチェックの実施」、2位「健康問題を相談できる窓口の設置」、3位「専門家による生活習慣改善指導」
- “健康リテラシー自信度別”仕事や仕事へのモチベーションに関する自己評価
「仕事にやりがいを感じている」健康リテラシーに自信がある人では64.2%、自信がない人では44.0%
「仕事に夢中で取り組んでいる」健康リテラシーに自信がある人では59.0%、自信がない人では35.0%
「工作中にイキイキしている」健康リテラシーに自信がある人では54.3%、自信がない人では32.5%
- 金融リテラシーが高いと思うアニメキャラクター TOP2 「ドラえもん」、「江戸川コナン」

【調査概要】

- ◆ 調査タイトル:「金融リテラシーと健康リテラシーに関する意識調査 2021」
- ◆ 調査対象:ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする 20歳~69歳の男女
- ◆ 調査期間:2021年11月10日~11月12日
- ◆ 調査方法:インターネット調査
- ◆ 調査地域:全国
- ◆ 有効回答数:1,000サンプル(有効回答から抽出)
- ◆ 調査協力会社:ネットエイジア株式会社

※アンケートの詳細については、[別紙](#)をご覧ください。

※本調査の全量は、当社公式ホームページでもご覧いただけます。

(<https://www2.axa.co.jp/info/news/2021/pdf/211216.pdf>)



アクサ生命は、お客さまや地域社会の皆さまにとって大切なものをお守りし、より良い未来のために行動してまいります。

アクサ生命について

アクサ生命はアクサのメンバーカンパニーとして 1994 年に設立されました。アクサが世界で培ってきた知識と経験を活かし、264 万のお客さまから 487 万件のご契約をお引き受けしています。1934 年の日本団体生命創業以来築いてきた全国 511 の商工会議所、民間企業、官公庁とのパートナーシップを通じて、死亡保障や医療・がん保障、年金、資産形成などの幅広い商品、企業福利の増進やライフマネジメント[®]（人生を経営する）*に関するアドバイスをお届けしています。2020 年度には、2,344 億円の保険金や年金、給付金等をお支払いしています。

*ライフマネジメント[®]はアクサ生命保険株式会社の登録商標です。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします：

アクサ生命保険株式会社 広報部

電話：03-6737-7140

FAX：03-6737-5964

<http://www.axa.co.jp>

アクサグループについて

アクサは世界 54 ヶ国で 15 万 3 千人の従業員を擁し、1 億 500 万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく 2020 年度通期の売上は 967 億ユーロ、アンダーライニング・アーニングスは 43 億ユーロ、2020 年 12 月 31 日時点における運用資産総額は 10,320 億ユーロにのびります。アクサはユーロネクスト・パリのコンパートメント A に上場しており、アクサの米国預託株式は OTC QX プラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス (DJSI) や FTSE4GOOD などの国際的な主要 SRI インデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ (UNEP FI) による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。

● リテラシーについて

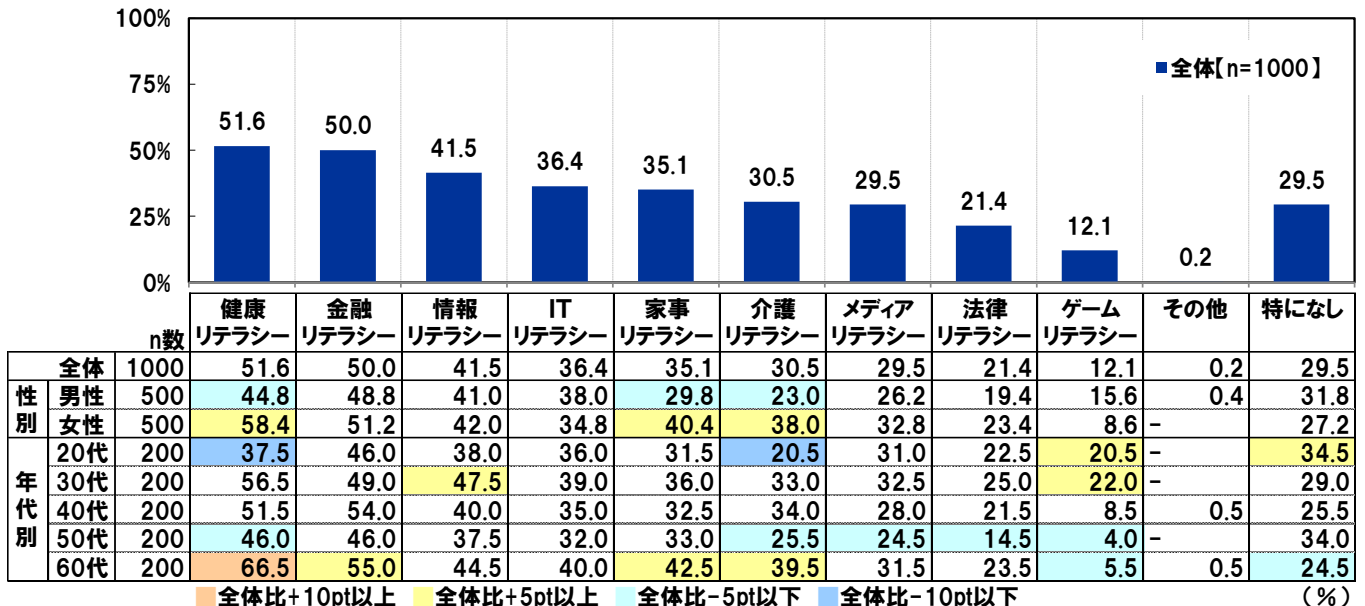
- 人生 100 年時代を楽しむために必要だと思うリテラシー 1 位「健康リテラシー」、2 位「金融リテラシー」

全国の 20 歳～69 歳の男女 1,000 名(全回答者)に、人生 100 年時代を楽しむために必要だと思うリテラシーを聞いたところ、「健康リテラシー」(51.6%)が 1 位、「金融リテラシー」(50.0%)が僅差で 2 位となりました。健康・医療に関する知識や能力、お金や金融に関する知識や能力が欠かせないと感じている人が多いことが読み取れます。次いで、3 位「情報リテラシー」(41.5%)、4 位「IT リテラシー」(36.4%)、5 位「家事リテラシー」(35.1%)となりました。

男女別にみると、女性では「健康リテラシー」が 58.4%、「家事リテラシー」が 40.4%、「介護リテラシー」が 38.0%と、男性(順に 44.8%、29.8%、23.0%)と比べて 10 ポイント以上高くなりました。

年代別にみると、60 代では「健康リテラシー」(66.5%)や「金融リテラシー」(55.0%)、「家事リテラシー」(42.5%)、「介護リテラシー」(39.5%)が他の年代と比べて高くなりました。60 代となりシニアライフが身近となる過程で、欠かせないとするリテラシーが増え、健康や金融、家事、介護に関する知識や能力の重要性を実感する人が多いようです。

◆人生100年時代を楽しむために必要だと思うリテラシー【複数回答形式】



● マネー教育について

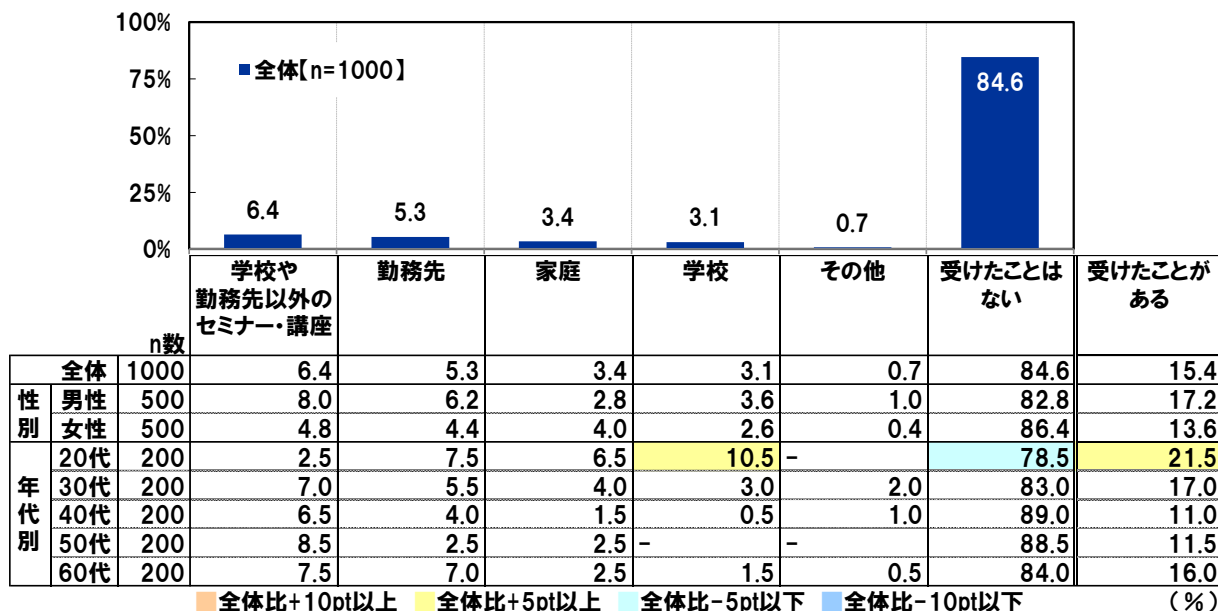
- 「マネー教育を受けたことがある」15.4%。20 代では 21.5%
マネー教育を受けた場所 20 代では「学校」が 1 位
- 自身がマネー教育を受けたかった時期 『高校生以下の時期』が 64.7%
- 子どもがマネー教育を受け始めるべきだと思う時期 『中学生以下の時期』が 58.8%

お金の使い方・貯め方・増やし方・管理の仕方などについて学ぶ「マネー教育」について質問しました。

まず、全回答者(1,000 名)に、マネー教育を受けたことがあるか、受けたことがある人はどこで受けたか聞いたところ、「学校や勤務先以外のセミナー・講座」が 6.4%、「勤務先」が 5.3%、「家庭」が 3.4%、「学校」が 3.1%、「その他」が 0.7%となり、『受けたことがある』という人は 15.4%でした。他方、「受けたことはない」は 84.6%となりました。大多数の人は、金融リテラシーを高めるきっかけの一つとなるマネー教育を受けた経験がないようです。

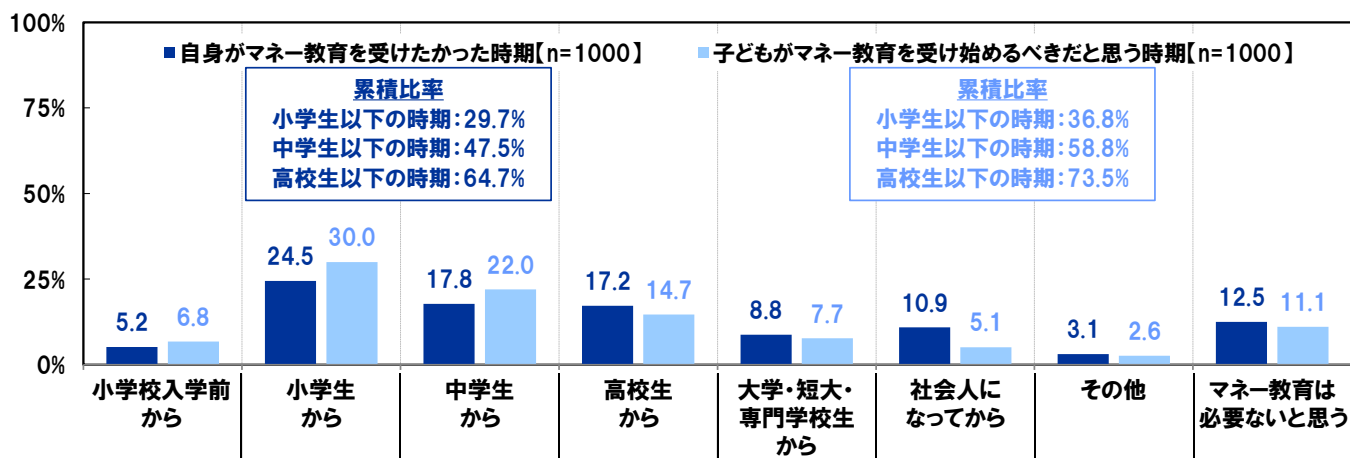
年代別にみると、20代では「学校」(10.5%)が最も高く、マネー教育を受けたことがある人の割合は21.5%と、他の年代と比べて高くなりました。2022年4月からは高校の家庭科の授業でマネー教育が行われるようになります。今後、マネー教育を受けたことがあるという人は、若い世代から増えていくのではないのでしょうか。

◆どこでマネー教育を受けたか [複数回答形式]



次に、自身がマネー教育を受けたかった時期と子どもがマネー教育を受け始めるべきだと思う時期を聞きました。自身がマネー教育を受けたかった時期では、「小学校入学前から」が5.2%、「小学生から」が24.5%、「中学生から」が17.8%、「高校生から」が17.2%となり、『高校生以下の時期』(64.7%)が半数以上を占めました。他方、子どもがマネー教育を受け始めるべきだと思う時期では、「小学校入学前から」が6.8%、「小学生から」が30.0%、「中学生から」が22.0%となり、『中学生以下の時期』(58.8%)が半数以上を占めました。子どものマネー教育は、自分が受けたかったと思う時期より早めに開始したほうが良いと考える大人が多いようです。

◆自身がマネー教育を受けたかった時期／子どもがマネー教育を受け始めるべきだと思う時期 [各単一回答形式]





● **金融リテラシーの自信度**

- 「金融リテラシーに自信がある」18.4%
金融リテラシーに最も自信を持っている世代は 60 代
- 「金融リテラシーに自信がある」近畿では高く 22.2%
マネー教育を受けたことがある人の半数が「金融リテラシーに自信あり」と回答

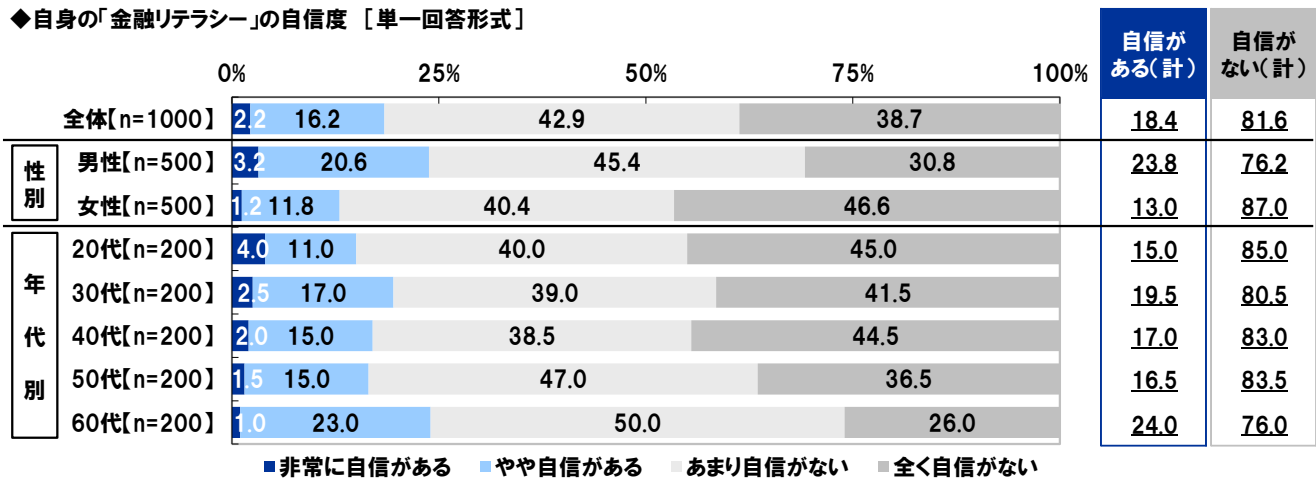
金融リテラシー(お金・金融・経済などの知識・能力)について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自身の「金融リテラシー」にどのくらい自信を持っているか聞いたところ、「非常に自信がある」が 2.2%、「やや自信がある」が 16.2%で、合計した『自信がある(計)』は 18.4%、「全く自信がない」が 38.7%、「あまり自信がない」が 42.9%で、合計した『自信がない(計)』は 81.6%となりました。金融リテラシーに自信を持っていないという人が全体の大多数を占めました。

男女別にみると、自信があると回答した人の割合は、男性では 23.8%と、女性(13.0%)と比べて 10.8ポイント高くなりました。

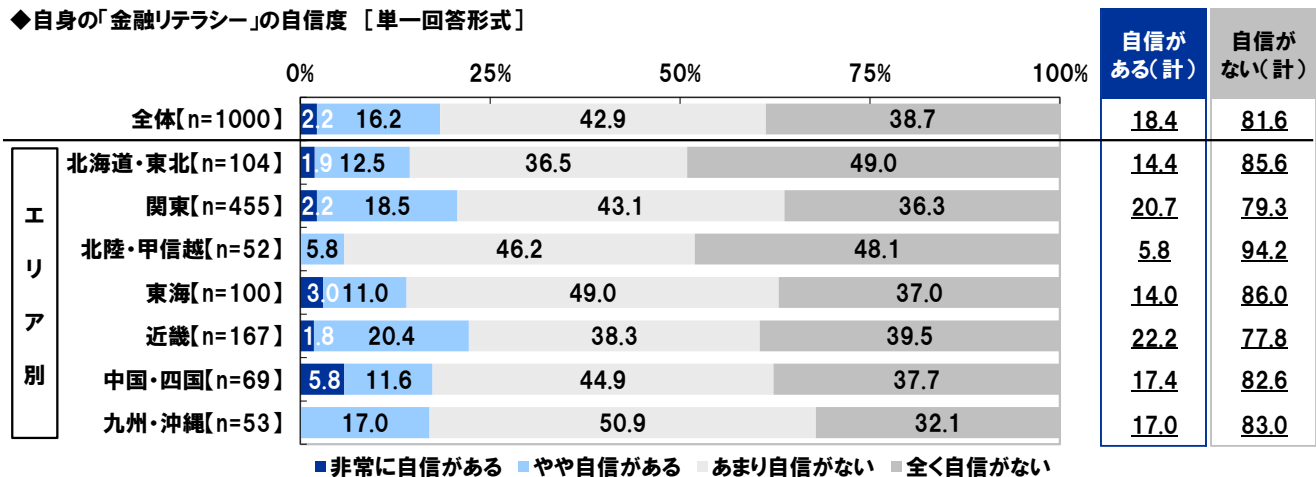
年代別にみると、自信があると回答した人の割合は、60代(24.0%)が最も高く、20代(15.0%)が最も低くなりました。

◆自身の「金融リテラシー」の自信度 [単一回答形式]



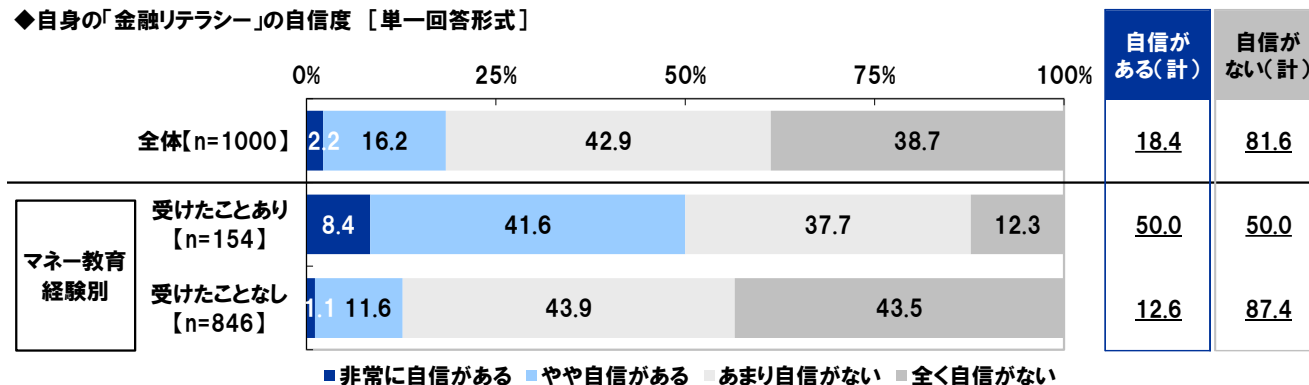
エリア別にみると、自信があると回答した人の割合は、北海道・東北 14.4%、関東 20.7%、北陸・甲信越 5.8%、東海 14.0%、近畿 22.2%、中国・四国 17.4%、九州・沖縄 17.0%と、大半のエリアで 1割半から 2割強となった一方、北陸・甲信越は 1割未満にとどまりました。

◆自身の「金融リテラシー」の自信度 [単一回答形式]



さらに、マネー教育を受けた経験別にみると、自信があると回答した人の割合は、マネー教育を受けたことがある人では50.0%と、マネー教育を受けたことがない人(12.6%)の約4倍となりました。マネー教育でお金の使い方・貯め方・増やし方・管理の仕方などについて学ぶ機会を得たことが、金融リテラシーに対する理解やそれらの実践に繋がっているのではないのでしょうか。

◆自身の「金融リテラシー」の自信度 [単一回答形式]



■非常に自信がある ■やや自信がある ■あまり自信がない ■全く自信がない

●金融リテラシーについて

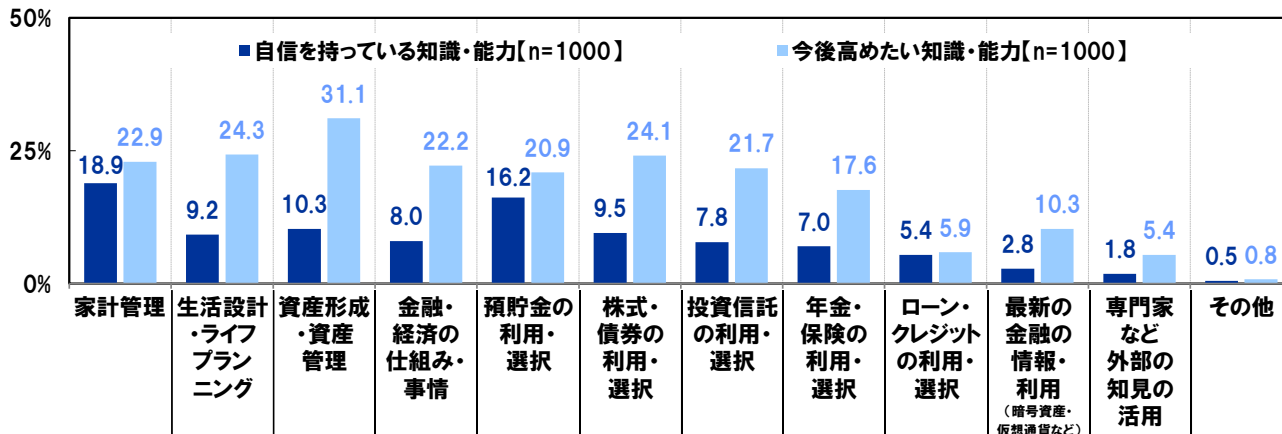
- 金融リテラシーで自信があること 1位「家計管理」、2位「預貯金の利用・選択」
- 金融リテラシーで今後高めたいこと 1位「資産形成・資産管理」、2位「生活設計・ライフプランニング」
- 金融リテラシーを身につけることのメリット 1位「老後の不安を解消できる」
- 子どもに社会人になるまでに身につけてほしい金融リテラシー 1位「生活設計・ライフプランニング」、2位「資産形成・資産管理」、3位「金融・経済の仕組み・事情」
- 子どもに金融リテラシーを身につけてほしい理由 1位「お金のことで苦勞してほしくないから」

金融リテラシーについて、自信を持っている知識・能力や今後高めたい知識・能力を質問しました。

全回答者(1,000名)に、金融リテラシーで自信を持っている知識・能力を聞いたところ、1位「家計管理」(18.9%)、2位「預貯金の利用・選択」(16.2%)、3位「資産形成・資産管理」(10.3%)、4位「株式・債券の利用・選択」(9.5%)、5位「生活設計・ライフプランニング」(9.2%)となりました。

また、金融リテラシーで今後高めたい知識・能力を聞いたところ、1位「資産形成・資産管理」(31.1%)、2位「生活設計・ライフプランニング」(24.3%)、3位「株式・債券の利用・選択」(24.1%)、4位「家計管理」(22.9%)、5位「金融・経済の仕組み・事情」(22.2%)となりました。

◆金融リテラシーで自信を持っている知識・能力/金融リテラシーで今後高めたい知識・能力 [各複数回答形式]



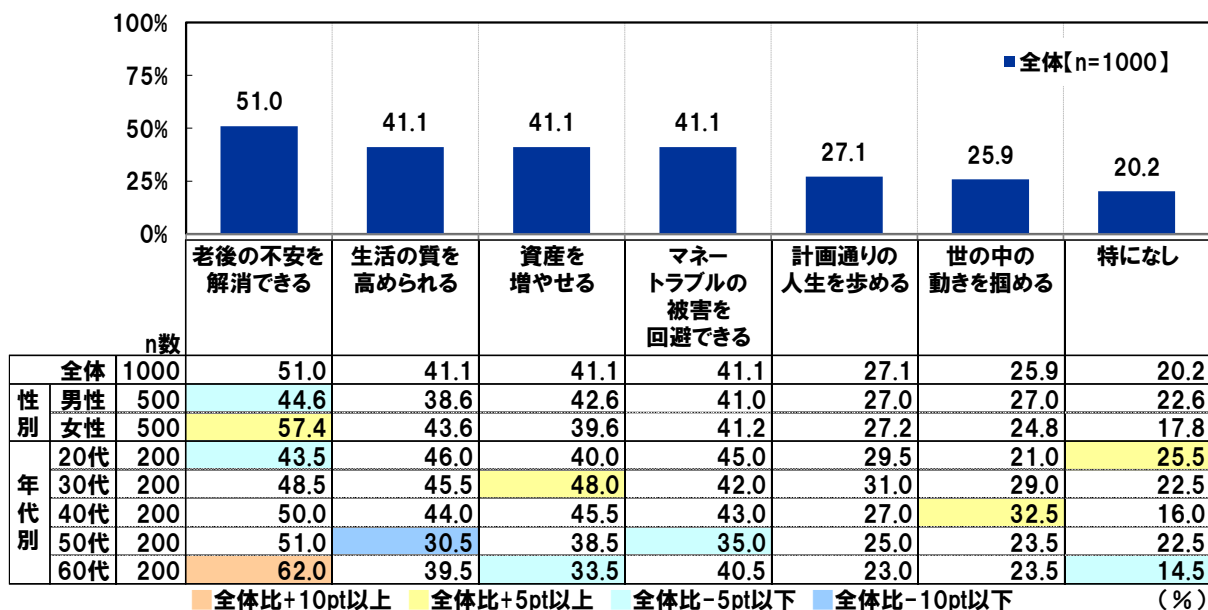


金融リテラシーを身につけるメリットだと思うことを聞いたところ、「老後の不安を解消できる」(51.0%)が最も高く、半数を超えました。次いで高くなったのは、「生活の質を高められる」、「資産を増やせる」、「マネートラブルの被害を回避できる」(いずれも41.1%)でした。

男女別にみると、女性では「老後の不安を解消できる」は57.4%、「生活の質を高められる」は43.6%と、男性(順に44.6%、38.6%)と比べて高くなりました。

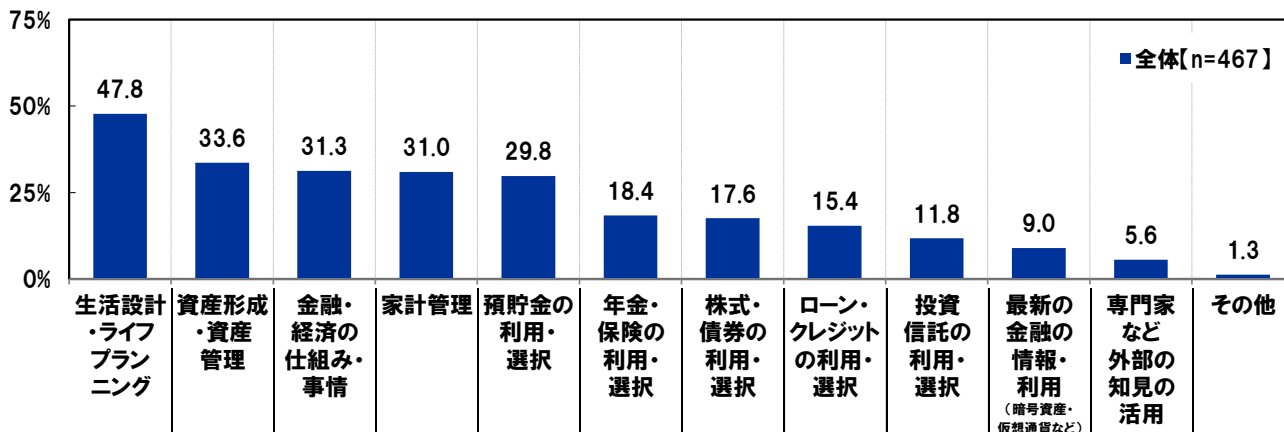
年代別にみると、30代以上では「老後の不安を解消できる」(30代48.5%、40代50.0%、50代51.0%、60代62.0%)が1位となったのに対し、20代では「生活の質を高められる」(46.0%)が1位、「マネートラブルの被害を回避できる」(45.0%)が2位となり、「老後の不安を解消できる」(43.5%)を上回りました。

◆金融リテラシーを身につけるメリットだと思うこと [複数回答形式]



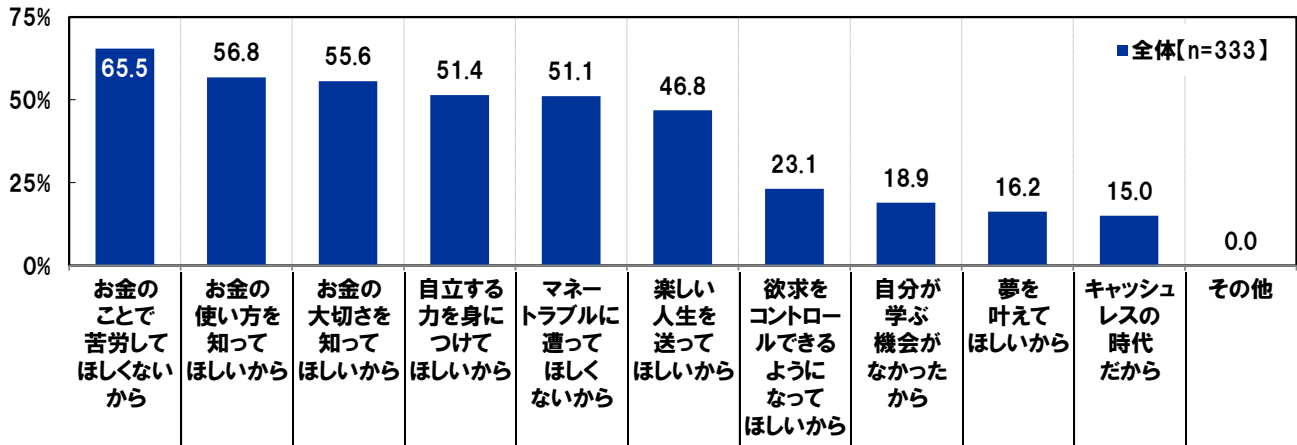
子どもがいる人(467名)に、金融リテラシーで子どもが社会人になるまでに身につけてほしい知識・能力を聞いたところ、1位「生活設計・ライフプランニング」(47.8%)、2位「資産形成・資産管理」(33.6%)、3位「金融・経済の仕組み・事情」(31.3%)、4位「家計管理」(31.0%)、5位「預貯金の利用・選択」(29.8%)となりました。自身の子どもには、将来に向けた具体的な生活設計を立てたり、ライフイベントを踏まえた人生設計を立てたりするための知識や能力を身につけてほしいと考える親が多いことが読み取れます。

◆金融リテラシーで子どもが社会人になるまでに身につけてほしい知識・能力 [複数回答形式] 対象:子どもがいる人



自身の子どもに金融リテラシーを身につけてほしい人(333名)に、その理由を聞いたところ、「お金のことで苦労してほしくないから」(65.5%)が最も高くなりました。お金のことで思い悩んだり、マネートラブルに遭ったり、お金が原因で生活が困窮したりしないよう、金融リテラシーをしっかりと身につけてほしいと考える親が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「お金の使い方を知ってほしいから」(56.8%)、「お金の大切さを知ってほしいから」(55.6%)、「自立する力を身につけてほしいから」(51.4%)、「マネートラブルに遭ってほしくないから」(51.1%)、「楽しい人生を送ってほしいから」(46.8%)、「欲求をコントロールできるようにしてほしいから」(23.1%)、「自分が学ぶ機会がなかったから」(18.9%)、「夢を叶えてほしいから」(16.2%)、「キャッシュレスの時代だから」(15.0%)、「その他」(0.0%)でした。

◆子どもに金融リテラシーを身につけてほしいと思う理由〔複数回答形式〕 対象:自身の子どもに金融リテラシーを身につけてほしい人



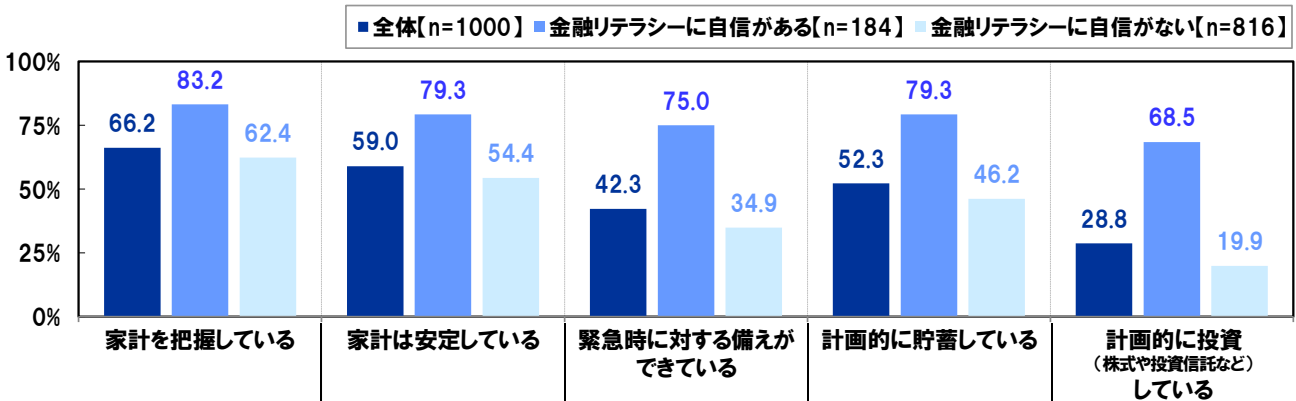
● “金融リテラシー自信度別”の家計状況

- 「家計を把握している」 金融リテラシーに自信がある人では 83.2%、自信がない人では 62.4%
- 「家計は安定している」 金融リテラシーに自信がある人では 79.3%、自信がない人では 54.4%
- 「緊急時に対する備えができていない」 金融リテラシーに自信がある人では 75.0%、自信がない人では 34.9%
- 「計画的に貯蓄している」 金融リテラシーに自信がある人では 79.3%、自信がない人では 46.2%
- 「計画的に投資している」 金融リテラシーに自信がある人では 68.5%、自信がない人では 19.9%

全回答者(1,000名)に、家計の状況について聞いたところ、【家計を把握している】では『あてはまる(計)』(「非常に」と「やや」の合計)は 66.2%、【家計は安定している】では 59.0%、【緊急時に対する備えができていない】では 42.3%、【計画的に貯蓄している】では 52.3%、【計画的に投資(株式や投資信託など)している】では 28.8%となりました。

金融リテラシーの自信度別にみると、『あてはまる(計)』の割合は金融リテラシーに自信がある人では【家計を把握している】が 83.2%、【家計は安定している】が 79.3%、【緊急時に対する備えができていない】が 75.0%、【計画的に貯蓄している】が 79.3%、【計画的に投資(株式や投資信託など)している】が 68.5%となり、金融リテラシーに自信がない人(順に 62.4%、54.4%、34.9%、46.2%、19.9%)と比べて軒並み高くなりました。なかでも、【計画的に投資(株式や投資信託など)している】では 48.6ポイント差(自信がある人 68.5%、自信がない人 19.9%)が生じる結果となりました。金融リテラシーに対する自信の有無は、計画的な投資行動の実践に影響を及ぼしているのかもしれない。

◆家計の状況〔各単一回答形式〕 ※『あてはまる(計)』(「非常に」と「やや」の合計)の割合を表示



● **生活設計・ライフプランニングについて**

- 「生活設計・ライフプランニングの必要性を感じている」64.6%。40代では 75.0%
- 「自身の夢・目標の実現には、生活設計・ライフプランニングは欠かせない」51.3%
- 「生活設計・ライフプランニングは難しいと感じる」67.5%
- 「生活設計・ライフプランニングを行ったことがある」22.3%。マネー教育を受けた人では 64.3%
- 「お金の専門家から生活設計・ライフプランニングのアドバイスを受けたことがある」12.2%

全回答者(1,000名)に、生活設計・ライフプランニングの意識や経験について質問しました。

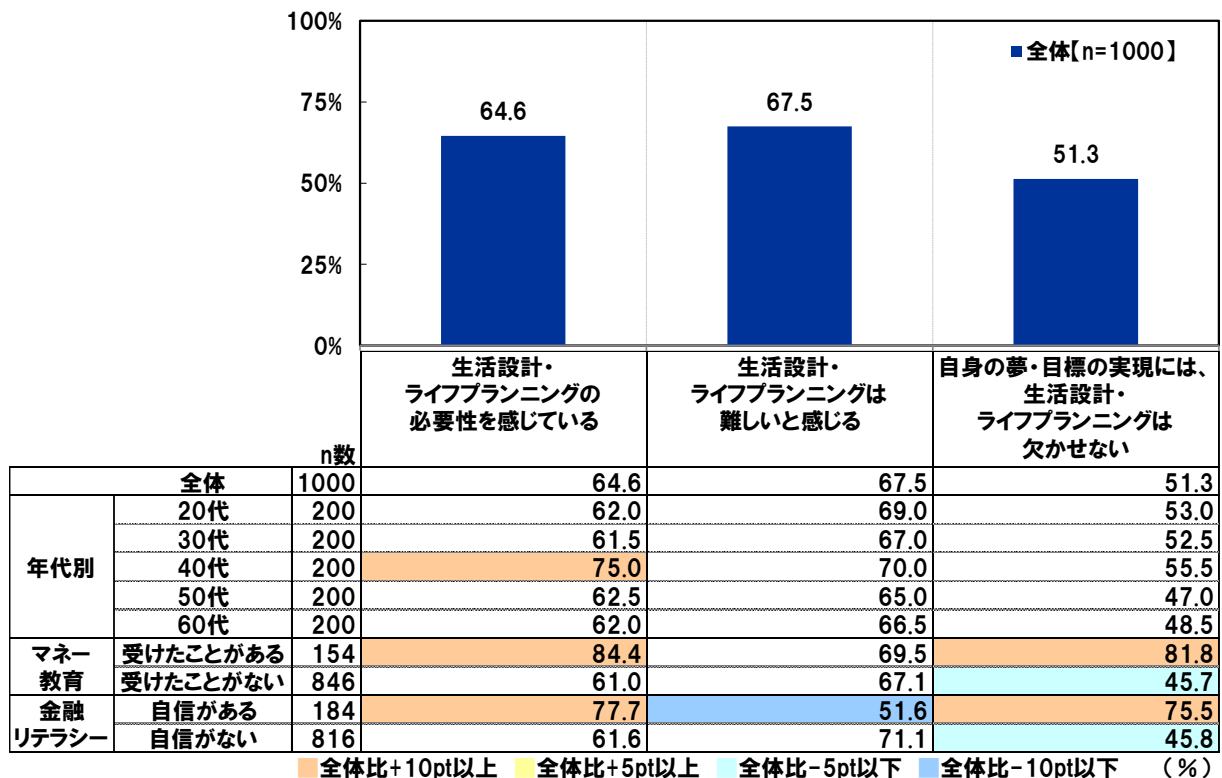
まず、生活設計・ライフプランニングの意識について聞いたところ、【生活設計・ライフプランニングの必要性を感じている】では「そう思う」は 64.6%、【生活設計・ライフプランニングは難しいと感じる】では 67.5%、【自身の夢・目標の実現には、生活設計・ライフプランニングは欠かせない】では 51.3%となりました。

年代別にみると、40代では【生活設計・ライフプランニングの必要性を感じている】が 75.0%と、他の年代と比べて突出して高くなりました。

マネー教育の経験別にみると、マネー教育を受けたことがある人では【生活設計・ライフプランニングの必要性を感じている】が 84.4%、【自身の夢・目標の実現には、生活設計・ライフプランニングは欠かせない】が 81.8%と、マネー教育を受けたことがない人(順に 61.0%、45.7%)と比べて高くなりました。

金融リテラシーの自信度別にみると、金融リテラシーに自信がある人では【生活設計・ライフプランニングの必要性を感じている】が 77.7%、【自身の夢・目標の実現には、生活設計・ライフプランニングは欠かせない】が 75.5%と、金融リテラシーに自信がない人(順に 61.6%、45.8%)と比べて高くなりました。

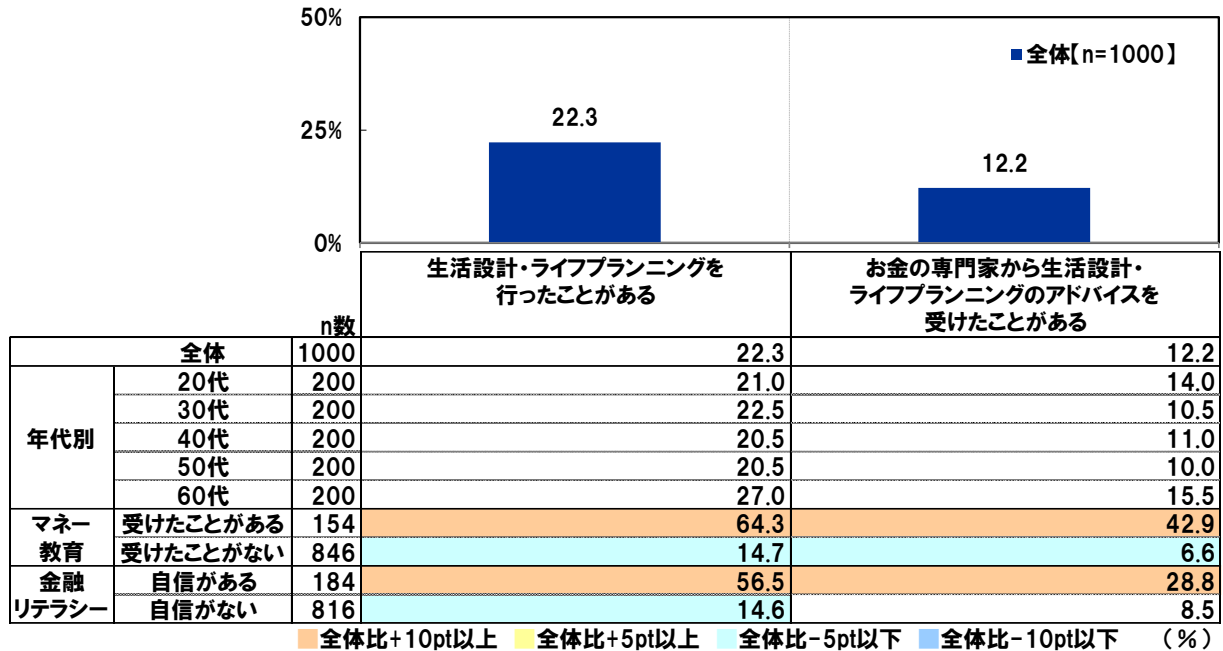
◆生活設計・ライフプランニングに関する意識 [各単一回答形式] ※「そう思う」の割合を表示



次に、生活設計・ライフプランニングの経験について聞いたところ、【生活設計・ライフプランニングを行ったことがある】では「経験がある」は 22.3%、【お金の専門家から生活設計・ライフプランニングのアドバイスを受けたことがある】では 12.2% となりました。

マネー教育の経験別にみると、マネー教育を受けたことがある人では【生活設計・ライフプランニングを行ったことがある】が 64.3%、【お金の専門家から生活設計・ライフプランニングのアドバイスを受けたことがある】が 42.9%と、マネー教育を受けたことがない人(順に 14.7%、6.6%)と比べて高くなりました。マネー教育を受けた経験が、生活設計やライフプランニングの実践を後押ししているケースがあるのではないのでしょうか。

◆生活設計・ライフプランニングに関する経験 [各単一回答形式] ※「経験がある」の割合を表示



● マネートラブルについて

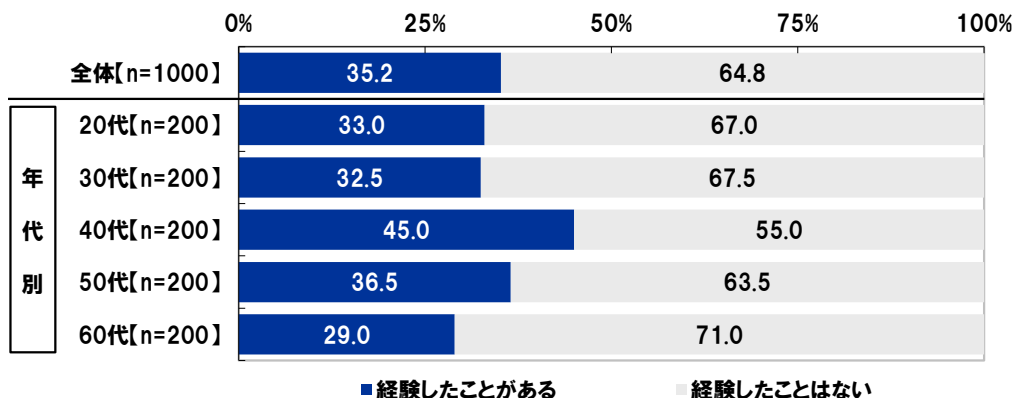
- 「これまでにマネートラブルを経験した」35.2%。40代では 45.0%
- これまでに経験したマネートラブル
1位「お金の使いすぎ(ゲーム・ギャンブルなど)」、2位「友人・知人とのお金の貸し借り」

マネートラブル(お金のトラブル)の経験について質問しました。

全回答者(1,000名)に、これまでに、マネートラブルを経験したことがあるか聞いたところ、「経験したことがある」は 35.2%、「経験したことはない」は 64.8%となりました。

年代別にみると、マネートラブルを経験したことがある人の割合は、40代(45.0%)が突出して高くなりました。

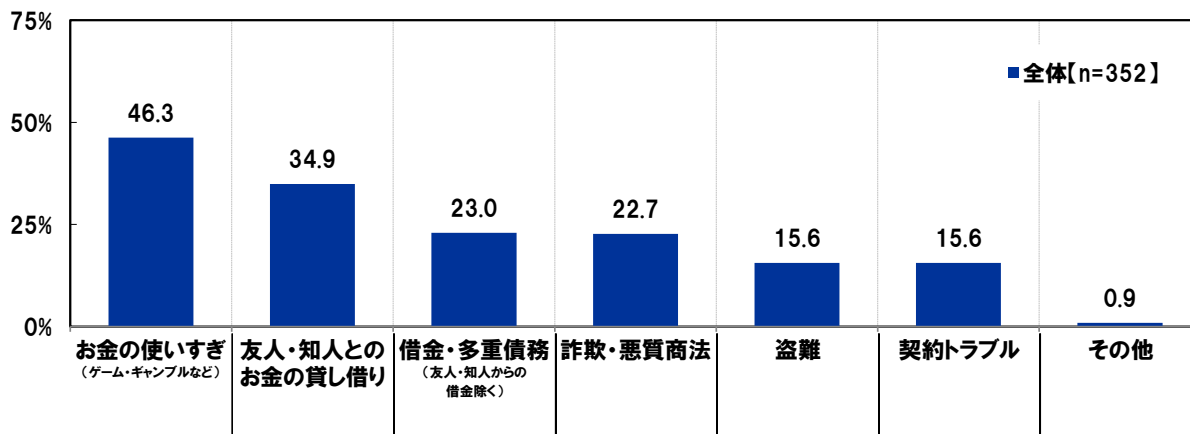
◆これまでに、マネートラブルを経験したことがあるか



これまでにマネートラブルを経験したことがある人(352名)に、どのようなトラブルを経験したことがあるか聞いたところ、「お金の使いすぎ(ゲーム・ギャンブルなど)」(46.3%)が最も高くなりました。ゲームやギャンブルなどに節度なくお金を使ってしまった経験があるという人が多いようです。次いで高くなったのは、「友人・知人とのお金の貸し借り」(34.9%)、「借金・多重債務(友人・知人からの借金除く)」(23.0%)、「詐欺・悪質商法」(22.7%)でした。

◆これまでに経験したことがあるマネートラブル [複数回答形式]

対象:これまでにマネートラブルを経験したことがある人



●健康リテラシーについて

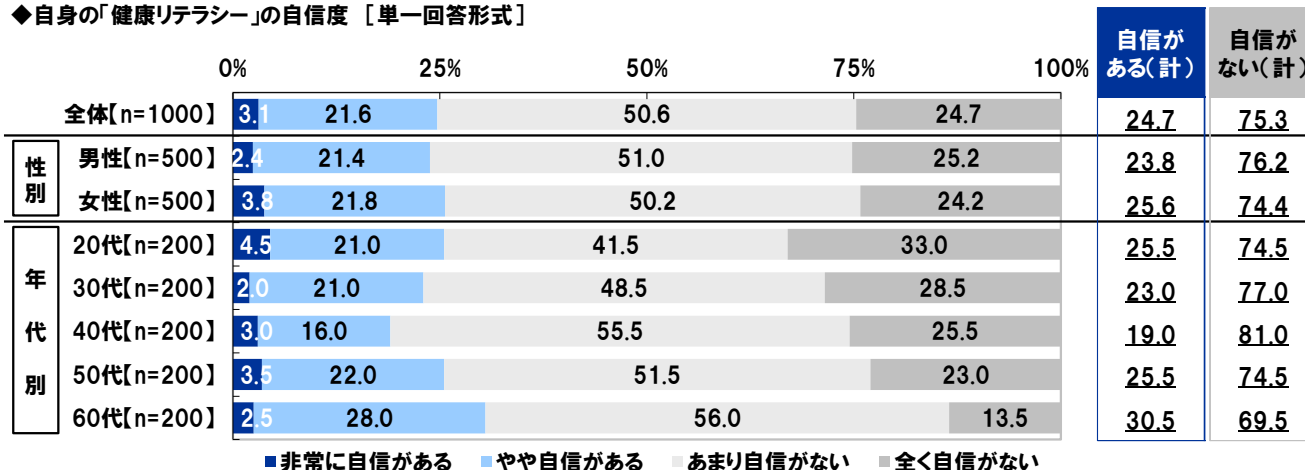
- 「健康リテラシーに自信がある」24.7%。40代では19.0%にとどまる
- 健康リテラシーで自信を持っていること 1位「休息・睡眠」、2位「健康診断」、3位「からだの健康」
- 健康リテラシーで今後高めたいこと 1位「からだの健康」、2位「こころの健康」、3位「病気の予防」

健康リテラシー(健康・医療などに関する知識・能力)について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自身の「健康リテラシー」にどのくらい自信を持っているか聞いたところ、「非常に自信がある」が3.1%、「やや自信がある」が21.6%で、合計した『自信がある(計)』は24.7%、「全く自信がない」が24.7%、「あまり自信がない」が50.6%で、合計した『自信がない(計)』は75.3%となりました。健康リテラシーに自信を持っていないという人が全体の大半を占めました。

年代別にみると、自信があると回答した人の割合は、60代(30.5%)が最も高く、40代(19.0%)が最も低くなりました。

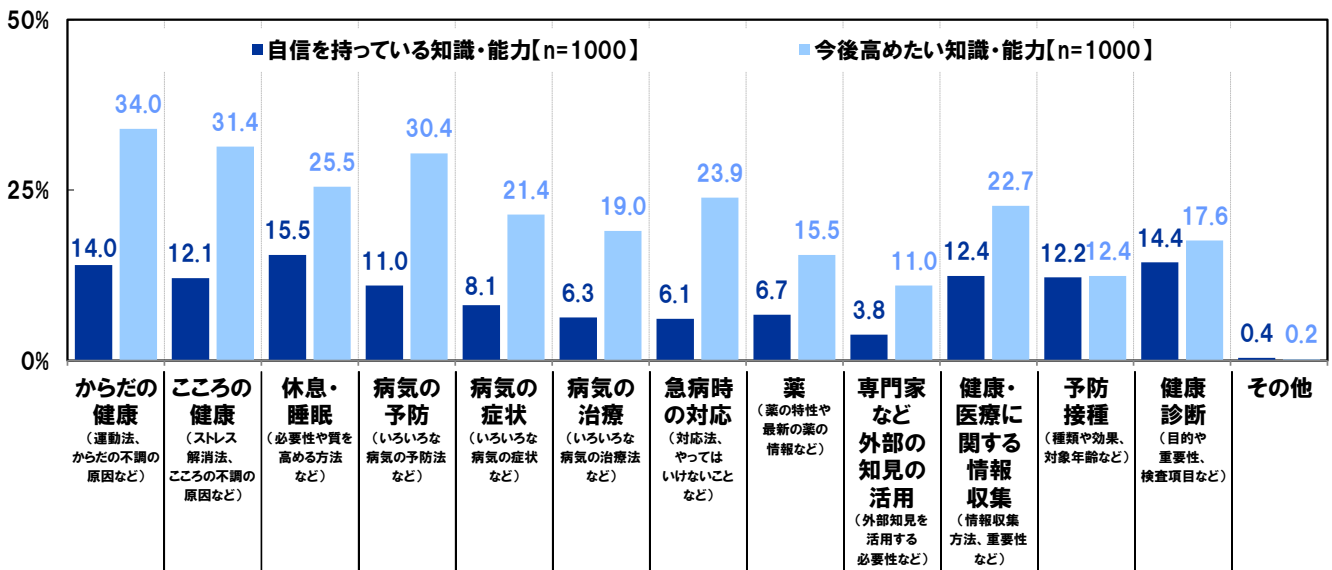
◆自身の「健康リテラシー」の自信度 [単一回答形式]



健康リテラシーで自信を持っている知識・能力を聞いたところ、1位「休息・睡眠（必要性や質を高める方法など）」（15.5%）、2位「健康診断（目的や重要性、検査項目など）」（14.4%）、3位「からだの健康（運動法、からだの不調の原因など）」（14.0%）、4位「健康・医療に関する情報収集（情報収集方法、重要性など）」（12.4%）、5位「予防接種（種類や効果、対象年齢など）」（12.2%）となりました。

また、健康リテラシーで今後高めたい知識・能力を聞いたところ、1位「からだの健康（運動法、からだの不調の原因など）」（34.0%）、2位「こころの健康（ストレス解消法、こころの不調の原因など）」（31.4%）、3位「病気の予防（いろいろな病気の予防法など）」（30.4%）、4位「休息・睡眠（必要性や質を高める方法など）」（25.5%）、5位「急病時の対応（対応法、やってはいけないことなど）」（23.9%）となりました。

◆健康リテラシーで自信を持っている知識・能力／健康リテラシーで今後高めたい知識・能力 [各複数回答形式]



● 有職者の健康リテラシーについて

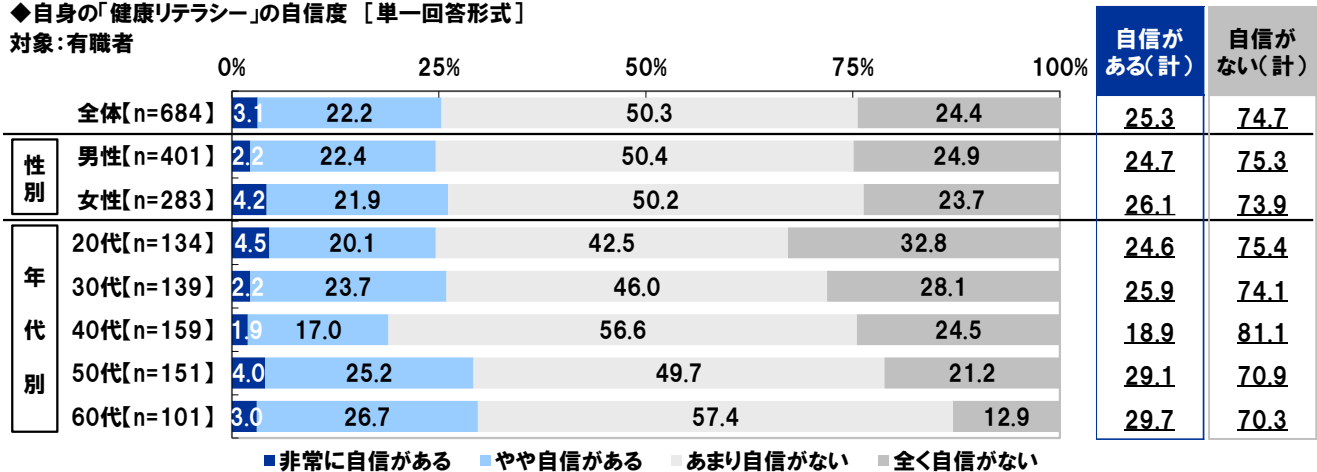
- 「健康リテラシーに自信がある」有職者の 25.3%
- 「勤め先で、従業員の健康リテラシーを高めるための取り組みが行われている」有職者の 36.4%
- 勤め先で行われている従業員の健康リテラシーを高めるための取り組み 1位「ストレスチェックの実施」、2位「健康問題を相談できる窓口の設置」、3位「専門家による生活習慣改善指導」
- “健康リテラシー自信度別”仕事や仕事へのモチベーションに関する自己評価
 - 「仕事にやりがいを感じている」
健康リテラシーに自信がある人では 64.2%、自信がない人では 44.0%
 - 「仕事に夢中で取り組んでいる」
健康リテラシーに自信がある人では 59.0%、自信がない人では 35.0%
 - 「仕事にイキイキしている」
健康リテラシーに自信がある人では 54.3%、自信がない人では 32.5%
 - 「仕事でよいパフォーマンスを発揮できている」
健康リテラシーに自信がある人では 67.1%、自信がない人では 39.7%
 - 「今の職場で働き続けたいと思っている」
健康リテラシーに自信がある人では 70.5%、自信がない人では 51.9%

有職者(684名)に、自身の「健康リテラシー」にどのくらい自信を持っているか聞いたところ、「非常に自信がある」が3.1%、「やや自信がある」が22.2%で、合計した『自信がある(計)』は25.3%、「全く自信がない」が24.4%、「あまり自信がない」が50.3%で、合計した『自信がない(計)』は74.7%となりました。

年代別にみると、自信があると回答した人の割合は、40代(18.9%)は2割未満にとどまりました。

◆自身の「健康リテラシー」の自信度 [単一回答形式]

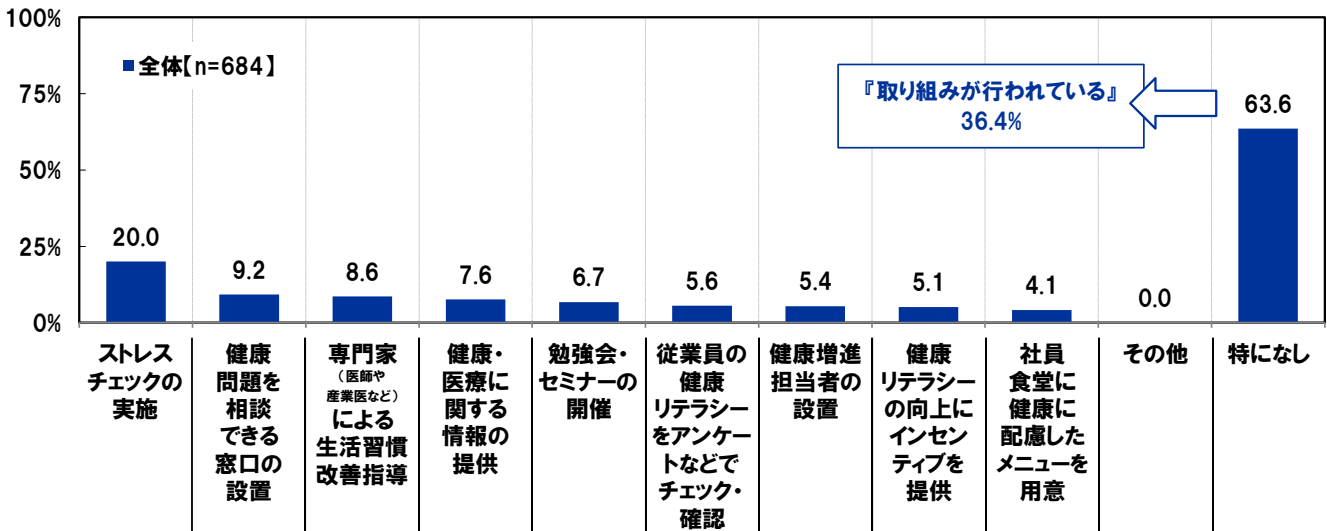
対象:有職者



勤め先で、従業員の健康リテラシーを高めるために、どのような取り組みが行われているか聞いたところ、「ストレスチェックの実施」が 20.0%、「健康問題を相談できる窓口の設置」が 9.2%、「専門家(医師や産業医など)による生活習慣改善指導」が 8.6%、「健康・医療に関する情報の提供」が 7.6%、「勉強会・セミナーの開催」が 6.7%、「従業員の健康リテラシーをアンケートなどでチェック・確認」が 5.6%となり、従業員の健康リテラシー向上のため、従業員の心の不調を予防するうえで有効なツールであるストレスチェックを取り入れている職場は 2 割でした。また、『取り組みが行われている』は 36.4%でした。他方、「特になし」は 63.6%となり、従業員の健康リテラシーを高める取り組みは、大半の勤め先において実施されていないという実状が明らかになりました。

◆勤め先で、従業員の健康リテラシーを高めるために、どのような取り組みが行われているか [複数回答形式]

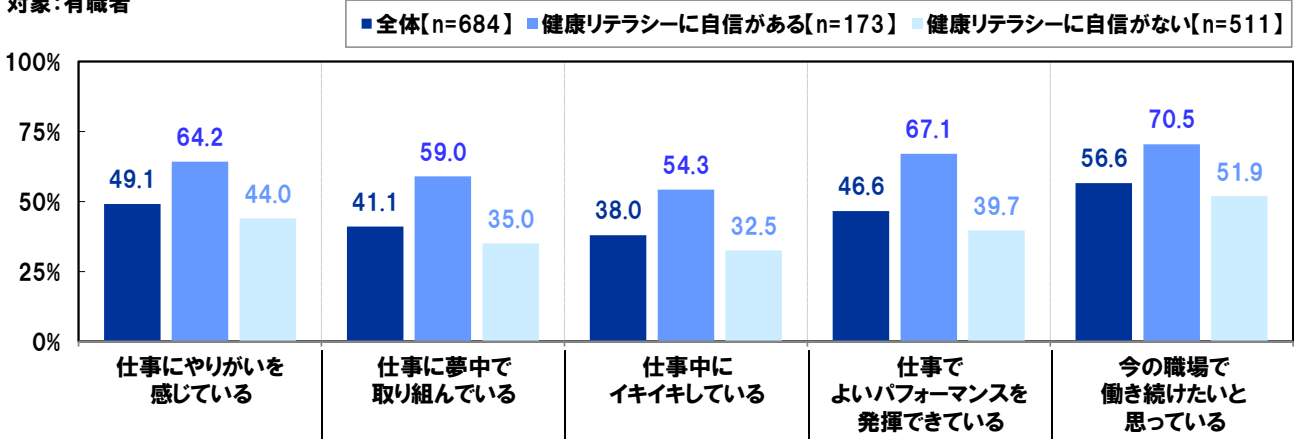
対象:有職者



続いて、仕事や仕事へのモチベーションに関する自己評価を聞いたところ、【仕事にやりがいを感じている】では『あてはまる(計)』は 49.1%、【仕事に夢中で取り組んでいる】では 41.1%、【仕事中にイキイキしている】では 38.0%、【仕事でよいパフォーマンスを発揮できている】では 46.6%、【今の職場で働き続けたいと思っている】では 56.6%となりました。

健康リテラシーの自信度別にみると、健康リテラシーに自信がある人では【仕事にやりがいを感じている】が 64.2%、【仕事に夢中で取り組んでいる】が 59.0%、【仕事中にイキイキしている】が 54.3%と、健康リテラシーに自信がない人(順に 44.0%、35.0%、32.5%)と比べて 20 ポイント以上高くなりました。健康リテラシーに自信がある人ほど、仕事に対する意欲や活力、没頭度が高くなり、ワーク・エンゲイジメントが高い傾向が明らかになりました。そのほか、健康リテラシーに自信がある人では【仕事でよいパフォーマンスを発揮できている】が 67.1%、【今の職場で働き続けたいと思っている】が 70.5%と、健康リテラシーに自信がない人(順に 39.7%、51.9%)と比べて高くなりました。

◆仕事に対する自己評価 [各単一回答形式] ※『あてはまる(計)』『非常に』と『やや』の合計)の割合を表示
対象:有職者



● 健康づくりについて

- 健康づくりとして行っていること 1位「しっかり休養・睡眠をとる」、2位「しっかり歯磨きをする」「栄養バランスのとれた食事をとる」健康リテラシーに自信がある人では59.1%、自信がない人では30.7%

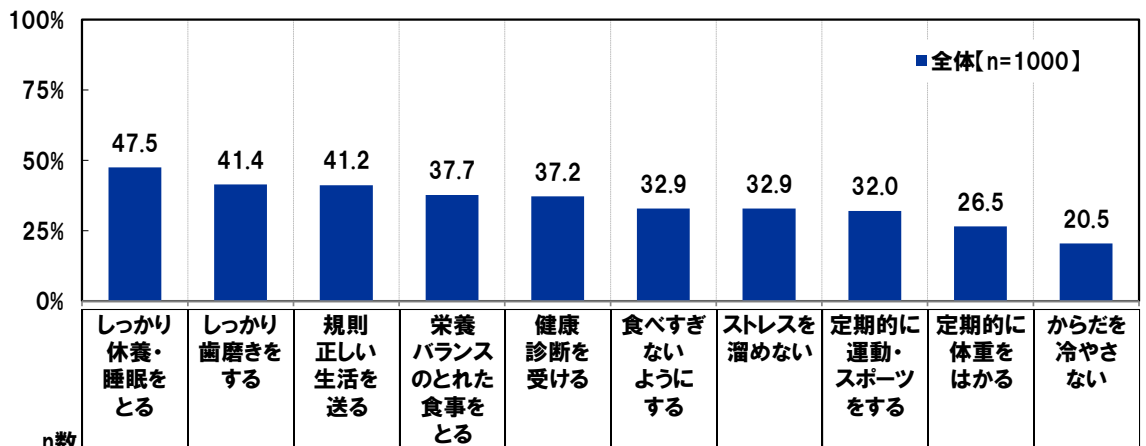
普段行っている健康づくりについて質問しました。

全回答者(1,000名)に、健康づくりとして取り組んでいることを聞いたところ、「しっかり休養・睡眠をとる」(47.5%)が最も高く、「しっかり歯磨きをする」(41.4%)、「規則正しい生活を送る」(41.2%)、「栄養バランスのとれた食事をとる」(37.7%)、「健康診断を受ける」(37.2%)が続きました。

年代別にみると、50代・60代では「健康診断を受ける」(順に48.0%、49.5%)が全体と比べて突出して高くなりました。

健康リテラシーの自信度別にみると、健康リテラシーに自信がある人では「栄養バランスのとれた食事をとる」が59.1%、「定期的に運動・スポーツをする」が51.8%と、健康リテラシーに自信がない人(順に30.7%、25.5%)と比べて25ポイント以上高くなりました。健康・医療などに関する知識・能力の高さに自信がある人ほど、普段の暮らしにおける食生活や運動習慣で健康づくりに繋がる行動に取り組んでいることが明らかになりました。

◆健康づくりとして取り組んでいること [複数回答形式] ※上位10位までを表示



		n数	しっかり休養・睡眠をとる	しっかり歯磨きをする	規則正しい生活を送る	栄養バランスのとれた食事をとる	健康診断を受ける	食べすぎないようにする	ストレスを溜めない	定期的に運動・スポーツをする	定期的に体重をはかる	からだを冷やさない
全体		1000	47.5	41.4	41.2	37.7	37.2	32.9	32.9	32.0	26.5	20.5
年代別	20代	200	40.5	34.5	31.5	27.5	17.5	28.0	22.5	30.0	20.5	14.0
	30代	200	49.5	42.5	42.0	35.5	33.0	34.5	32.0	27.5	24.5	24.0
	40代	200	49.0	43.0	38.5	39.5	38.0	32.0	35.5	28.5	23.0	26.5
	50代	200	45.5	43.0	43.0	38.5	48.0	33.0	35.0	33.0	29.5	19.5
	60代	200	53.0	44.0	51.0	47.5	49.5	37.0	39.5	41.0	35.0	18.5
健康リテラシー	自信がある	247	62.8	55.5	58.3	59.1	51.0	44.5	50.2	51.8	36.8	27.5
	自信がない	753	42.5	36.8	35.6	30.7	32.7	29.1	27.2	25.5	23.1	18.2

■全体比+10pt以上 ■全体比+5pt以上 ■全体比-5pt以下 ■全体比-10pt以下 (%)

● **金融リテラシー・健康リテラシーとくらし満足度の関係**

- 「現在の生活の質に満足している」
 - 金融リテラシーに自信がある人では 67.4%、自信がない人では 41.8%
 - 健康リテラシーに自信がある人では 62.8%、自信がない人では 41.2%
- 「老後の生活に不安はない」
 - 金融リテラシーに自信がある人では 44.6%、自信がない人では 16.8%
 - 健康リテラシーに自信がある人では 34.0%、自信がない人では 17.9%
- 「夢や目標の実現に向けて頑張りたい」
 - 金融リテラシーに自信がある人では 78.3%、自信がない人では 59.7%
 - 健康リテラシーに自信がある人では 80.6%、自信がない人では 57.4%

全回答者(1,000名)に、自身の生活・くらしに対する意識について質問しました。

まず、自身の生活について聞いたところ、【現在の生活の質に満足している】では『あてはまる(計)』は 46.5%、【老後の生活に不安はない】では 21.9%となりました。

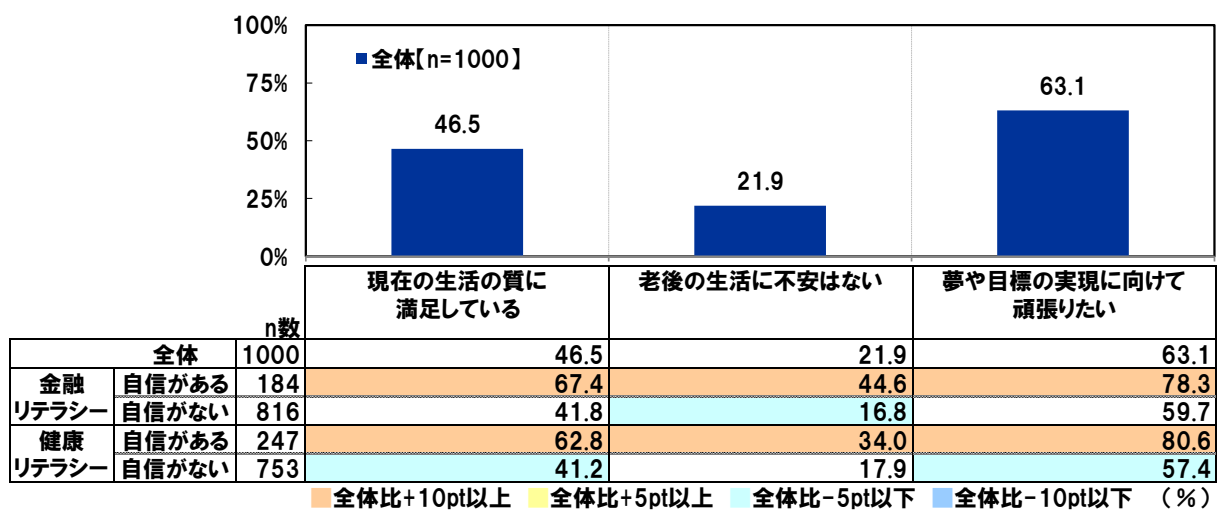
金融リテラシーの自信度別にみると、金融リテラシーに自信がある人では【現在の生活の質に満足している】が 67.4%、【老後の生活に不安はない】が 44.6%と、金融リテラシーに自信がない人(順に 41.8%、16.8%)と比べて 25 ポイント以上高くなりました。

健康リテラシーの自信度別にみると、健康リテラシーに自信がある人では【現在の生活の質に満足している】が 62.8%、【老後の生活に不安はない】が 34.0%と、健康リテラシーに自信がない人(順に 41.2%、17.9%)と比べて高くなりました。

また、【夢や目標の実現に向けて頑張りたい】では『あてはまる(計)』は 63.1%となりました。

リテラシーの自信度別にみると、金融リテラシーに自信がある人では 78.3%、健康リテラシーに自信がある人では 80.6%と、自信がない人(金融リテラシーに自信がない人 59.7%、健康リテラシーに自信がない人 57.4%)と比べて 20 ポイント前後高くなりました。金融リテラシーや健康リテラシーに自信がある人ほど、夢や目標の実現に向けて意欲的な姿勢や前向きな姿勢を維持している傾向にあるようです。

◆自身の生活・くらしに対する意識 [各単一回答形式] ※『あてはまる(計)』(「非常に」と「やや」の合計)の割合を表示



● 金融リテラシー・健康リテラシーとアニメキャラクター

- 金融リテラシーが高いと思うアニメキャラクター TOP2「ドラえもん」、「江戸川コナン」
- 金融リテラシーが低いと思うアニメキャラクター TOP2「野比のび太」、「両津勘吉」
- 健康リテラシーが高いと思うアニメキャラクター TOP2「フグ田サザエ」、「孫悟空」
- 健康リテラシーが低いと思うアニメキャラクター TOP2「剛田武」、「野比のび太」

最後に、“金融リテラシー”と“健康リテラシー”をテーマに、イメージに合うアニメキャラクターを聞きました。

全回答者(1,000名)に、金融リテラシーが高いと思うアニメキャラクターを聞いたところ、「ドラえもん(ドラえもん)」と「江戸川コナン(名探偵コナン)」(いずれも 22 名)が同数で 1 位となり、3 位「両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)」(14 名)、4 位「ナミ(ONE PIECE)」(13 名)、5 位「フグ田サザエ(サザエさん)」(12 名)が続きました。

◆金融リテラシーが高いと思うアニメキャラクター

[自由回答形式] ※上位10位までを表示

	全体[n=1000]	名
1位	ドラえもん(ドラえもん)	22
	江戸川コナン(名探偵コナン)	22
3位	両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)	14
4位	ナミ(ONE PIECE)	13
5位	フグ田サザエ(サザエさん)	12
6位	骨川スネ夫(ドラえもん)	11
7位	出木杉英才(ドラえもん)	10
8位	ルパン三世(ルパン三世)	9
	花輪和彦(ちびまる子ちゃん)	9
10位	伊藤開司(逆境無頼カイジ)	8
	萬田銀次郎(難波金融伝・ミナミの帝王)	8

金融リテラシーが低いと思うアニメキャラクターを聞いたところ、「野比のび太(ドラえもん)」と「両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)」(いずれも 44 名)が同数で 1 位となり、3 位「伊藤開司(逆境無頼カイジ)」(28 名)、4 位「孫悟空(ドラゴンボール)」(25 名)、5 位「モンキー・D・ルフィ(ONE PIECE)」(16 名)が続きました。

◆金融リテラシーが低いと思うアニメキャラクター

[自由回答形式] ※上位10位までを表示

	全体[n=1000]	名
1位	野比のび太(ドラえもん)	44
	両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)	44
3位	伊藤開司(逆境無頼カイジ)	28
4位	孫悟空(ドラゴンボール)	25
5位	モンキー・D・ルフィ(ONE PIECE)	16
6位	さくらももこ(ちびまる子ちゃん)	15
7位	バカボンのパパ(天才バカボン)	13
8位	剛田武(ドラえもん)	8
	野原しんのすけ(クレヨンしんちゃん)	8
10位	磯野カツオ(サザエさん)	7



健康リテラシーが高いと思うアニメキャラクターを聞いたところ、1位「フグ田サザエ(サザエさん)」(30名)、2位「孫悟空(ドラゴンボール)」(15名)、3位「キン肉スグル(キン肉マン)」(10名)、4位「ドラえもん(ドラえもん)」(9名)、「ブラック・ジャック(ブラック・ジャック)」(9名)、「江戸川コナン(名探偵コナン)」(9名)、「両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)」(9名)となりました。

◆健康リテラシーが高いと思うアニメキャラクター
[自由回答形式] ※上位10位までを表示

	全体[n=1000]	名
1位	フグ田サザエ(サザエさん)	30
2位	孫悟空(ドラゴンボール)	15
3位	キン肉スグル(キン肉マン)	10
4位	ドラえもん(ドラえもん)	9
	ブラック・ジャック(ブラック・ジャック)	9
	江戸川コナン(名探偵コナン)	9
	両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)	9
8位	源静香(ドラえもん)	8
9位	竈門炭治郎(鬼滅の刃)	7
10位	ルパン三世(ルパン三世)	5
	磯野フネ(サザエさん)	5
	荒岩一味(クッキングパパ)	5

健康リテラシーが低いと思うアニメキャラクターを聞いたところ、「剛田武(ドラえもん)」と「野比のび太(ドラえもん)」(いずれも18名)が同数で1位となり、3位「両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)」(16名)、4位「モンキー・D・ルフィ(ONE PIECE)」(12名)、5位「ドラえもん(ドラえもん)」(8名)が続きました。

◆健康リテラシーが低いと思うアニメキャラクター
[自由回答形式] ※上位10位までを表示

	全体[n=1000]	名
1位	剛田武(ドラえもん)	18
	野比のび太(ドラえもん)	18
3位	両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)	16
4位	モンキー・D・ルフィ(ONE PIECE)	12
5位	ドラえもん(ドラえもん)	8
6位	伊藤開司(逆境無頼カイジ)	7
	山根強(ちびまる子ちゃん)	7
8位	坂田銀時(銀魂)	6
	小池さん(オバケのQ太郎)	6
	野原しんのすけ(クレヨンしんちゃん)	6